

私を作る5つのもの

小池さんらしさを感じる
とっておきをご紹介します



①ビジネススクールに通っていた頃、出場したプレゼンコンテストで優勝した時のトロフィー。②『と和』では、子育て中の方にもご自宅に訪問して、カット、カラー、パーマなどサロンと同じメニューを提供している。③スタッフと共に開発した、オリジナルのシャンプーとトリートメント。④サロン空間は、車いすで来店されたお客さまも利用できるように、ユニバーサルデザインを採用。サロン内はスリッパ仕様。⑤尊敬している方からいただいたお気に入りのネックレスは、毎日身に付けている。

『と和』
トップスタイリスト
上村奈津美



Staff Voice

小池の美容に対する志の高さにもいつも尊敬しています。代表という立場でいちばん忙しくても、スタッフやほかのスタイリストが担当するお客さまに対しても細かい配慮があります。会話のセンスも抜群で、お客さまに元気を与えています。

が訪れた。その時、小池さんの心に変化が生まれる。
「髪が伸び、働いていた頃とはすっかり変わってしまった私の様子を見て、後輩が前髪を5cmほどカットしてくれました。すると、心が晴れて自信が持てた感覚に。人の気持ちや動きが美容師という仕事にはあるんだと身を持って実感できたんです。療養生活とリハビリを経て社会復帰を果たし、自分が経験したように、髪を切りたくてもサロンに行くことができないう人のためのサービスをしたく、『訪問美容と和』を開業しました。」

訪問美容を広め スタッフの育成を

「訪問美容を始めた当初は、試行錯誤しながら、自分も食べていかななくてはいけないので必死でした。必死で働いていくうちに、目的を見失っていたんです。そんな時、お客さまから、小池さんはお店持っていないの？。元気がなくなったら髪を切ってもらいにお店に行きたい。という言葉をいただきました。その言葉に、自宅でも、サロンでも、場所にこだわらず、お客さまに快適な美容を提供することがいちばん大切なことなんだと気付かされました。それから、本格的に経営の勉強をするため、ビジネススクールに通い、ユニバーサルデザインの美容室、『コミュニティサロンと和』を14年2月をオープンさせました。今では、年齢やご状況に関わらず、0歳か

ら100歳まで、特別な事情があっても、なくても、月500名の方にご利用頂いています。私の仕事は、訪問美容をすることが目的ではなく、どのような場所や環境であっても、笑顔あふれる毎日をお届けすること。だと、日々取り組んでいます。」
『と和』で働くスタッフは、全員が10年以上のキャリアの女性。そして、スタッフ全員が介護職員初任者研修以上の資格を持つ。
「訪問美容は、お客さまの自宅に伺うため、いちばん大切なのがお客さまに安心感を与えることです。自宅でも、サロンにいるような感覚を味わってほしいという思いを大切にしています。」
今後、訪問美容をより広げ、スタッフ教育にも力を入れていきたいと語る小池さん。
「私が訪問美容を始めた7年前に比べ、今は認知もされ、自治体を通して訪問美容が利用されるケースも増えてきました。訪問美容の講習会を開催すると、興味を示してくれる美容師の方が多く参加されています。美容を受けられる環境を多くの人に提供していきたいという気持ちは、美容師を志した頃から変わっていませんが、そのためには私たちの力だけでは、まだまだ足りません。サロンや訪問美容を分けることなく、お客様に笑顔をお届けする仲間を募集しています。私たちと一緒に、社会貢献をする生き方・働き方をしてみませんか。」

あの頃があったから、今の私がいる...

女性の仕事師

東京・巣鴨の訪問美容サービスを提供しているサロン『と和』代表を務めている小池由貴子さん。自身に訪れた人生の転機、今後目指す訪問美容のあり方などについてお話を伺いました。

Photo: Toshimitsu Kodai



コミュニティサロンとわ/訪問美容と和

小池由貴子

こいけゆきこ。『と和』代表。
'78年10月18日生まれ。群馬県出身。山野美容専門学校卒業。

「場所にとらわれない、美容を提供する環境づくりを考えていきたい」

小池由貴子

コミュニティサロンと和/訪問美容と和



祖母の存在が美容師としての原点

東京・巣鴨にある、訪問美容サービスを提供するサロン『と和』。『と和』では、東京近郊のエリアで、在宅を中心に病院や施設へ赴き、病气やケガなどの理由によりサロンに足を運べない人へ向けた、美容サービスを行っている。代表を務める小池由貴子さんは、自分の家族や自分自身が患った病気の経験から、訪問美容の道を志すようになった。

「私の祖母は、40〜50代の頃から原因不明の脱毛症に悩まされていて、日常的にカツラを着用していました。気軽に髪を切りに行くことができない祖母の悩みを解決したいという思いがきっかけで、美容師になることを決意しました。私にとって祖母の存在は大きく、美容師を目指そうと思った時から、髪を切りに行きたくてもサロンに行くことができない人のために、美容師としてできることはないかということを考えていました」

生き方・働き方を見つめ直した療養生活

高校卒業後、小池さんは東京、美容学校卒業後は、池袋にあるサロンで、5年間のアシスタント時代を経験し、スタイリストデビューを果たす。12年間働き店長やエリアマネージャーも務めた。
「仕事中に急に膝の痛みを感じ、検査をすることに。骨にある腫瘍が良性か悪性の結果を調べる手術が、今後の自分の人生がどうなってしまうのが、絶望の底に突き落とされるような気持ちでした。結果は良性でしたが、術後半年間は重いでの生活をすることに。店長として働き、好きのように過ごしていたひとり暮らしから、実家で家族のサポートがなくては生活ができない状態になりました。」
周囲の目が気になり、外出することもなく鬱々とした日々を過ごす小池さんのもとに、職場の後輩

小池さんの1週間

月	7:00起床。 10:00~19:00サロンワーク。 サロンワーク後、スタッフと食事。 24:00就寝。
火	月曜日と同じ。
水	6:00起床。9:00~19:00訪問美容。 24:00就寝。
木	公休。起床後、家事。 日中はフィットサルや旅行など。 24:00就寝。
金	水曜日と同じ。
土	6:00起床。8:00経営会議。 10:00~19:00サロンワーク。 サロンワーク後、スタッフと食事。 24:00就寝。
日	6:00起床。8:00出社、勉強会。 10:00~19:00サロンワーク。 24:00就寝。